

孕

ませ

ム

~先輩睡姦~

のらまに



『やってやる!』  
俺はそう決意をして家を出た

学校に好きな先輩がいる  
告白はした：でも振られた  
それが1週間前のこと

勉強に集中したいからと言っていたけど  
先輩に好きな人がいたのは知っていた  
だけど諦められる訳がない

先輩は俺のものだ：：  
心がまだ奪えないなら  
身体を先に奪ってしまえば良い

—— 悪魔の囁きだった。

振られた日にネットで  
強力な睡眠薬を購入し  
便利な社会になったもんだな  
と笑みを浮かべた

家に届くまで2〜4日ほど掛かるため  
その間に計画を練った

先輩に会うのは気まずいが委員が同じ為  
ほぼ毎日会っている

時間帯やどうやって睡眠薬  
を飲ませるかなど試行錯誤した

悪い考えをする時は何故  
心が躍るのだろうか：不思議だ

# 〜土曜日の朝〜

ついに決行日だ  
大丈夫、うまくいく……

興奮して昨日は  
あまり寝れなかったぜ

先輩には委員の仕事があるからと  
学校に来るように伝えてる

……来た。

ごめんごめん  
待った？

ううん、大丈夫  
俺も来たところ  
それじゃ、行こうか

そうだね  
さっさと済ませて帰ろう  
それで何するの？

ああ、資料整理みたい  
午前中には終わりそうかな

なるほどー  
……の部屋？



ここみただね

この部屋は普段でも人が来ない  
休日なんて人が来るわけがない場所

今日のステージなのだ

俺は部屋のカギを開けて  
ソファに腰をかけた先輩に  
飲み物を渡した睡眠薬入りのね



あ、これ  
どうぞ。

ん？ありがとうございます。  
温かいの飲みたかったの  
(ゴクゴク)

さてと、始める前に  
俺、トイレ行きますね

はいはい  
行ってらっしゃい

さよなら

飲み物を飲むように  
誘導する前に飲んでくれたので  
効果が出るまでトイレで時間潰し

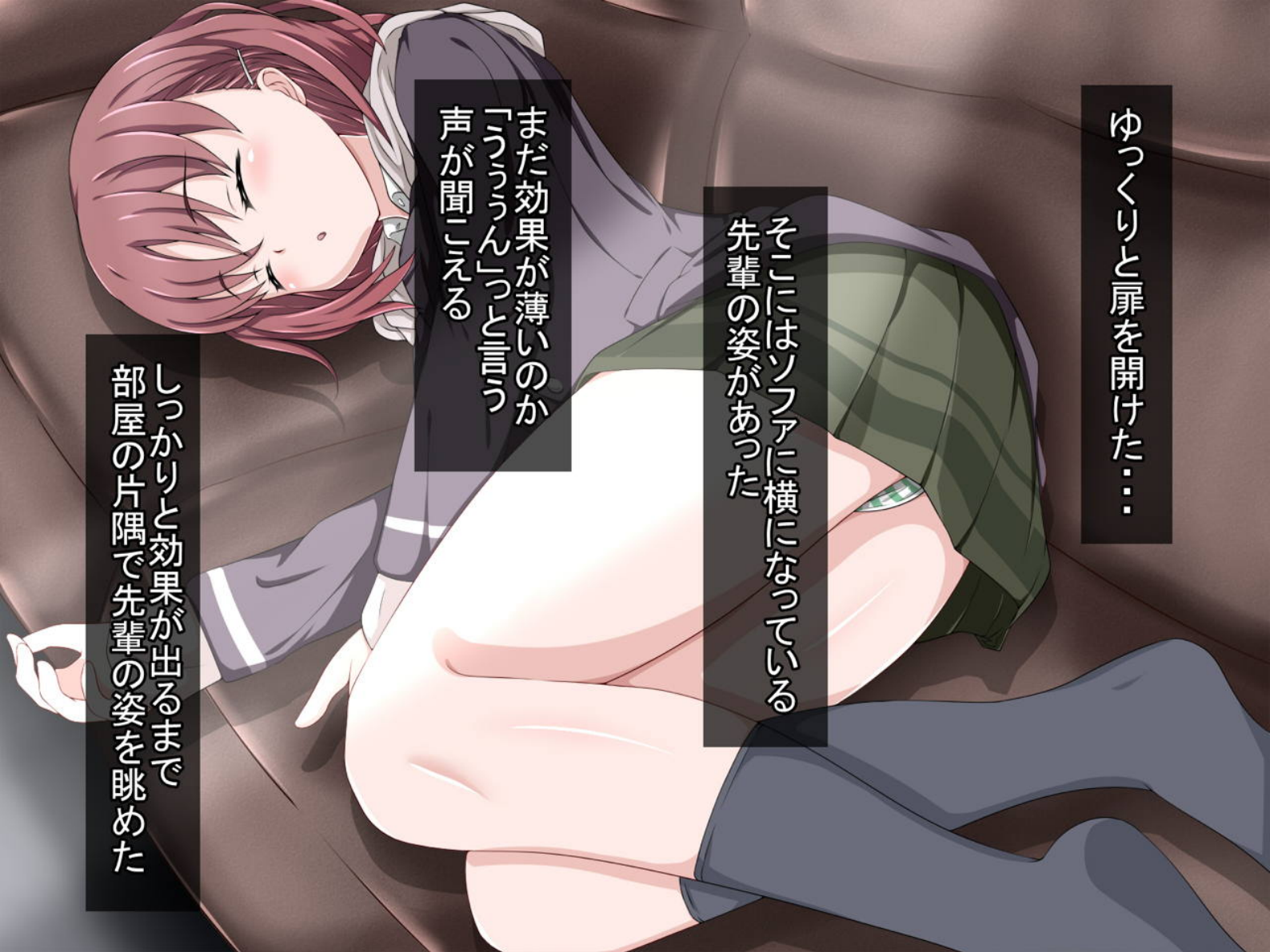
大体10分前後で効果がある  
気持ち落ち着かせるには  
ちよつどいい

.....  
さてと、そろそろかな










ゆっくりと扉を開けた……

そこにはソファに横になっている  
先輩の姿があった

まだ効果が薄いのか  
「ううん」といって  
声が聞こえる

しっかりと効果が出るまで  
部屋の片隅で先輩の姿を眺めた



すぐにでも襲ってしまいたい  
欲望を抑えじつくりと舐め回す  
ように視姦した

太ももがエロく  
少しパンチラしていて  
俺は今までにない程に興奮していた

.....。

今からこの身体を俺のものに出来る  
はやる気持ちを抑え  
俺はゆっくりと先輩に近づいた



んんん

すんー。  
すうーすうー

先輩？  
大丈夫ですか？

寝たかな。

おい…。

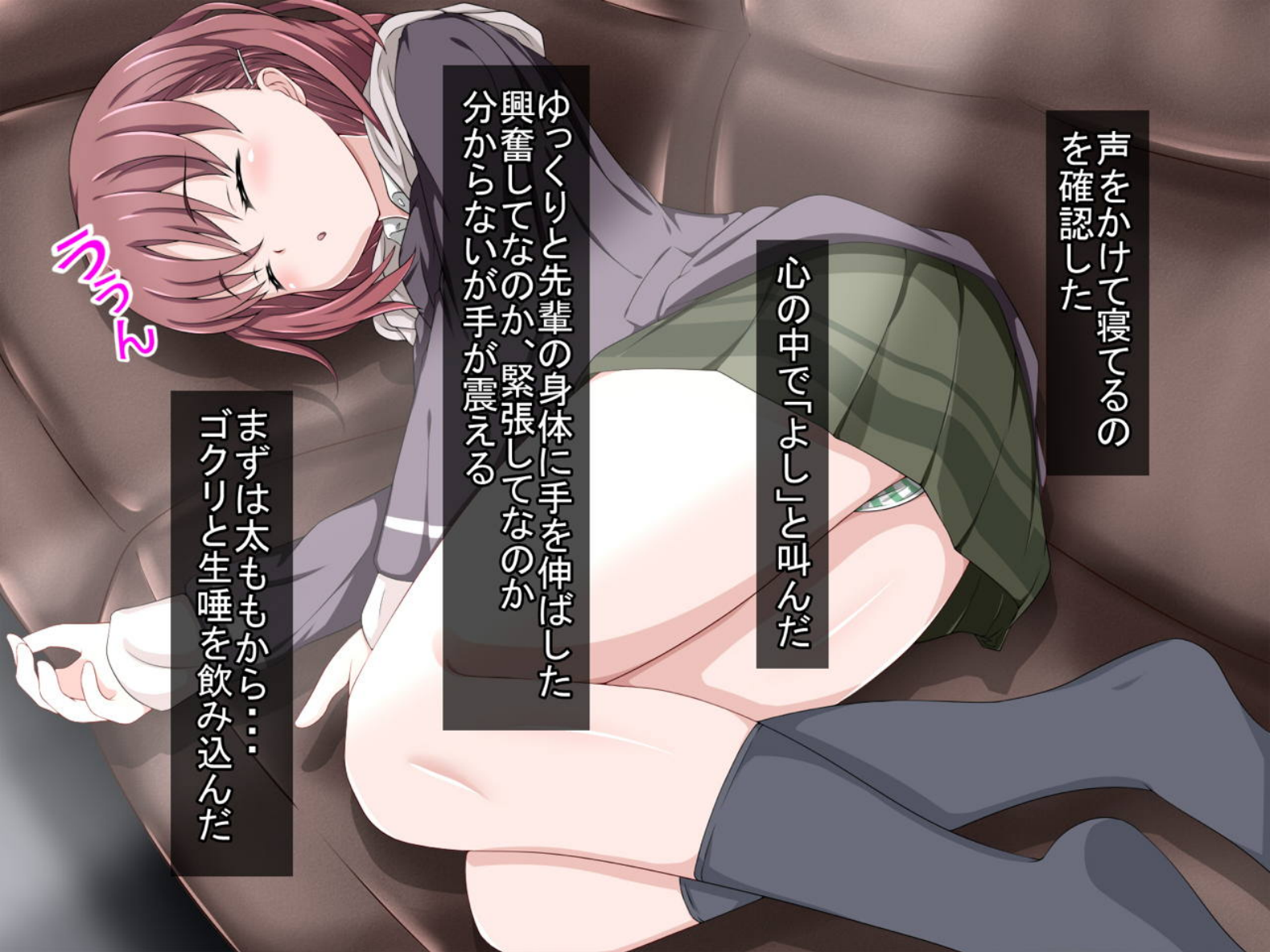
声をかけて寝てるのを確認した

心の中で「よし」と叫んだ

ゆっくりと先輩の身体に手を伸ばした興奮してなのか、緊張してなのか分からないが手が震える

まずは太ももから……ゴクリと生唾を飲み込んだ

んんん



…先輩の太ももは  
スベスベで柔らかく触っている  
だけで心地よかった

はあはあ…  
最高だ…

先輩に触れたことで  
興奮が増したのか  
ズボンがはち切れんばかりに  
膨れている

俺は先輩の身体を  
触りつつゆっくりと服を  
脱がしていった

ううん

耳で聞こえるくらい  
鼻息が荒くなっている  
のが分かった



うん

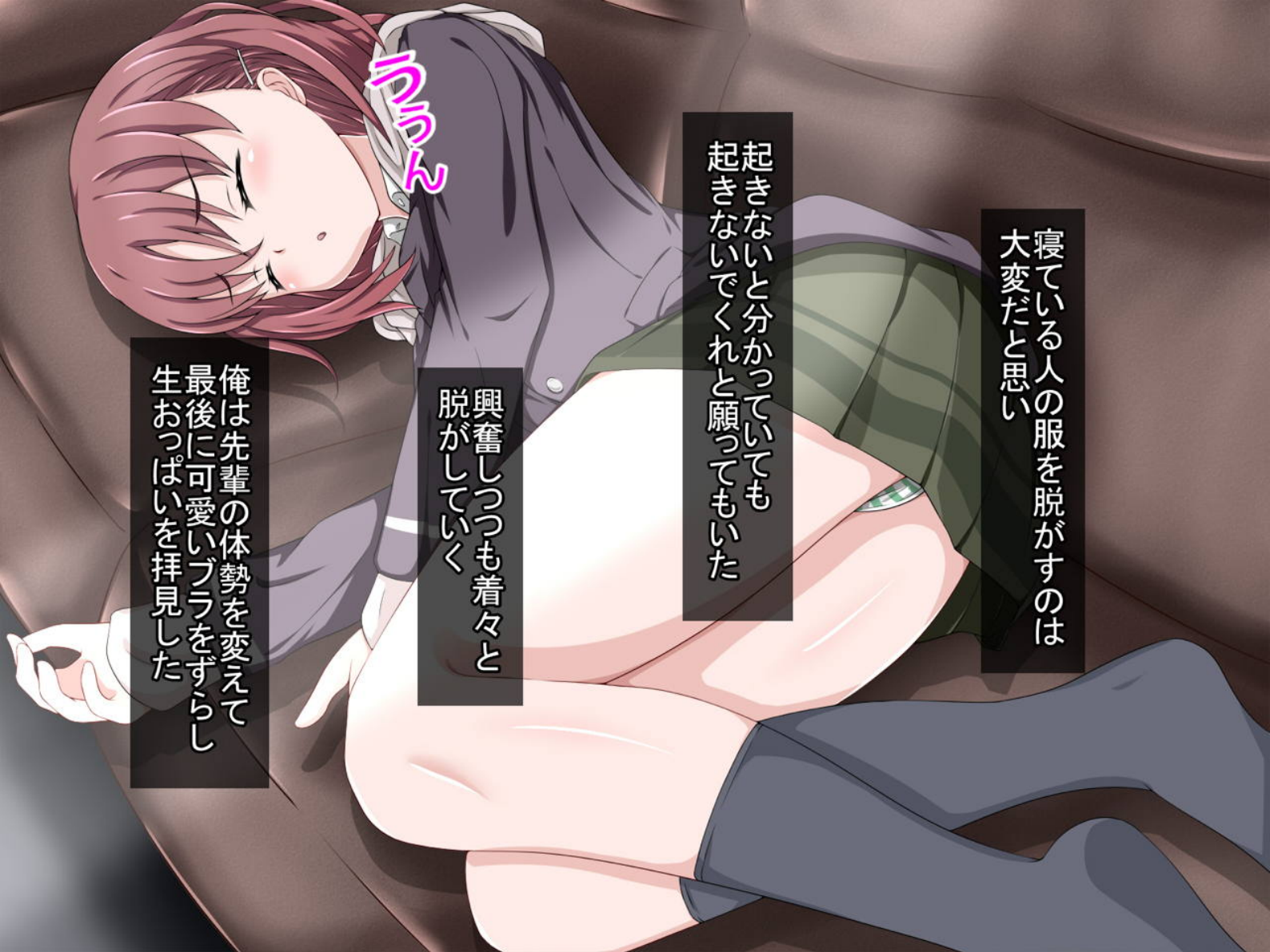
ふうんっ……  
んふう……

触っているだけで  
気持ち良い……

それじゃ……  
先輩の全部  
見せてもらいますね

はあ……  
はあ……

はあはあ……  
最高だ……



ううん

寝ている人の服を脱がすのは  
大変だと思い

起きないと分かっているでも  
起きないでくれと願ってもいた

興奮しつつも着々と  
脱がしていく

俺は先輩の体勢を変えて  
最後に可愛いブラをずらし  
生おっぱいを拝見した







張りがあってピンク色の  
乳首が少しピンと  
上を向いている

やっべえな  
初めて見たけどたまんねえ

とても綺麗な  
おっぱい...

はあはあ  
すげえ...

んんん

びん

びん

んん

俺は初めて触ったおっぱいに感動しながらスカートをめくった

おっぱい…  
やわらけえ

はあはあ…  
ずっと揉んでいたい

可愛い縞々のパンツが  
あらわになり俺の股間も  
パンパンだ



先輩、可愛いパンツ  
着けてるんですね

少し汗ばんでる……  
とても良い匂いが  
また俺を興奮させた

やわらかい太ももを  
撫でながら股間にゆっくり  
と顔を近づけた

ううん

ふん

ぱん

す

あ

フェロモンと言つものなのか  
……分からないが  
最高の気分だ



俺は興奮しながらパンツを  
ゆっくりと脱がした

震えながらも手「ずる」  
となく  
スルスルと脱がせる「ん」  
が出来た

はあはあ...



うん

ゴクリッ

ふん

先輩の少しグロくて  
ピンク色のマンコに俺の  
チンコが入ると思うだけで  
勃起が半端ない

初めて見るマンコに  
思わず生唾を飲み込んだ

ん

ん

ん

すぐにも挿入したいが  
ちゃんと愛撫して濡らした方が  
良いとエロ本にも書いていた

あぁっ

ピク

俺はゆっくりと顔を近づけ  
先輩のマンコを下から上にと  
舌を動かし舐めた

初めて舐めたマンコの味は独特で  
酸っぱいような苦いような感じだった

マンコ

アハッ

ピク

ピク



俺は初めて味わうマンコを  
ぐちゅぐちゅと音が出るくらい  
舐め回した

眠っていても身体は反応するのか  
敏感な部分に舌が触れたり  
吸ったりするとビクっ！ビクっ！  
と動いたのが分かった。

その反応が楽しくて  
夢中でクニニを続けた





俺の唾液だけでない  
先輩のマン汁が溢れて  
きているのが分かる

その汁を音を立てながら  
じゅるじゅると吸い付いた

味わうように先輩の体液を  
飲み込んで口の中いっぱい  
先輩を感じた

びりり

あぁっ

びりり

あぁっ

あぁっ

しりり  
しりり

びりり



先輩の中に入りたい  
早く先輩とひとつになりたい

先輩のマンコは俺の唾液と  
マン汁でドロドロに濡れている

もう我慢の限界だった

んはっ

あぁっ

どろ

どろ

どろ

どろ

あぁっ

あぁっ

ぶはぁっ

どろ





俺は息を荒くして  
チンコを取り出した

はあっ...  
はあっ...

ガマン汁でヌルヌルに  
なっている

ぼろん

ムム

ムム

ムム

ゆっくりと先輩のマンコに  
勃起チンコを近づけた

しっかりと濡らしたのに処女なのか  
キツキツで全然入らない……

強引に少し入れたが行き止まりがある  
多分……処女膜なのだろう



一気に押し込まないとこれ以上は  
入らないだろうな……

起きないと思うが祈りつつ  
処女膜を破るために  
強めに押し込む決意をした

深呼吸をして……

すうすうはあゝ

ぐんぐん

んん

んん

んん







はあはあ…  
入ったあゝ

チンコが干切れそうなくらい  
ギチギチに締め付けられる

これが先輩の中の感触…

ヌルヌルとした体液と  
チンコに伝わる先輩の温かい  
体温が気持ち良い

ソゾソ

チンコ

チンコ

アチム

アチム

チンコ

チンコ



処女だった先輩はマンコから  
出血していた

先輩……くっくっ  
気持ち良いですっ

処女膜を破ると血が出るのは  
知っていたが……  
実際経験すると少しびびった

先輩の初めて  
ありがとっぐいします

ゾゾゾ

ゴク

んんん

マヂニ

ムハハ

ムハハ

ゴク





気持ち良過ぎて腰が段々と速くなっていくのが分かった

射精感がゾクゾクと上がってきているのが分かる

そろそろイキそうだと分かる腰の速度もどんどん上がる

はあっ... はあっ

ぞくぞく

はあっ

ぞくぞく

はあっ



くっ…はあっはあっ  
ぶっ…はあっはあっ

先輩…!!  
そろそろイキますっ!!

このまま中に出しても  
いいですよねっ!!

何も言わないって事は  
オツケーって事で…

ゾクゾク

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ





我慢してた分、大量の精液が先輩の中にぶちまかれた

ビクン！ビクン！っと何度も脈打った

はあ……はあ……

はっはっ……はっはっ

ふうっ……はっあはっ……

ピクン

ピクン

ピクン

ピクン

ピクン

ピクン

ピクン



ゴーン

はあはあ……先輩  
最高の気分です……

先輩も気持ち  
良かったですよ……

俺も気持ち良かったし  
それにまだチンコがギンギン  
なの分かりますよね

「このまま2回戦いきましょー」

ゴーン

ゴーン

ゴポッ

ゴポ

ゴポッ





チンコ抜かずに先輩の  
体勢を変えたら精液がマンコから  
溢れてきたのが分かった

自分でもビックリするほど  
大量に射精したから  
腔内は俺の精液が行き場を  
失ってるんだろっとな

チンコは変わらずドンドンで  
ギンギン状態だ

よいしょよしよ...  
ふんっふんっ...

んんん

んんん

んんん

んんん

ぽぽぽ

ぽぽぽ

ぽぽぽ



眠っていて意識は無いが  
身体は反応するようで  
少し火照っていてビクビク  
と動いている

それじゃ……  
続きますよ先輩

ズプッ

ズプッ

マチュ

ゆつくりと  
腰を動かしてはじめたら  
マンコ隙間から精液が  
あふれ……出るわ出るわ

んん

んん





動いたたびにぐちゅぐちゅと  
マンコから音がなる

先輩のマンコを味わうように  
腰を動かし続けた

締め付け過ぎですよ……  
先輩っ

ズプッ

ズプッ

マチュ

ぐんぐん

んんん…

んんん…  
くうっ

んんん

んんん



くっくっくっ  
はあっはあっ

先輩の身体もマンコも  
最高ですっ

先輩っ先輩っ...  
好きですよ先輩っ

もっももっも  
愛してあげますからね

んあっ...はっ  
はあっ...はっ

処女だったキツキツマンコ  
に俺の想いを込めて  
何度も打ち付けた

ぎゅっぎゅっ  
つとマンコが締まって  
俺の精液を搾り取るうと  
してるようだ

…先輩っ  
またイキそうですっ！

はあっ…  
んはっ…







んぐっんん

んぐっんん

んぐっんん

んぐっんん

んぐっんん

くぅっ—っ—っ—  
ああああ...っ—







まだまだだ……  
これからですからね  
孕むまで中出ししますよ

そう言っていると一度チンコを抜いた  
どろどろの精液の中に血も少しだけ  
混じっていた

童貞卒業と処女を貰ったことを  
感じつつ体位を変えて  
3回戦目に入りました





おおっ！  
溢れてる 溢れてる

じん

おっ

おっ

おっ

ぽろぽろ

ぽろぽろ

びしょ

おっ

おっ



中は俺がさっき出した  
精液があふれかえっているのが  
わかる

まんぐり返しのような体位にし  
先輩のマンコが見えるようにした

俺は自分の出した精液の  
量に少しびっくりしつつ  
こんなにも出るんだなっと関心した

ゴッ

はっ

ん

ん

ポロキ

ポロキ

ニロ

ん

ん



先輩、そんなにこぼしたら  
勿体無いですよっ！

んんんん

んんん

ふんっ……

精液でぐちよぐちよのマンコに  
ふたをするようにチンコを挿入した

キツキツマンコは健在で  
チンコを押し出すかのように  
絡みつくように締め付ける

ズボン

んんん

んんん

ポポポ

ホリ

んんん

んんん



脳が溶けそうなほどの  
気持ち良さはオナニーでは  
絶対に味わえない

挿入するだけで  
背筋をゾクゾクつとさせる  
締め付けが半端ない

めっちゃめっちゃ  
気持ち良いわ〜

きゅん...  
はあ... はあ...

んんん

んんん

んんん

んんん

ズボン

フポオ

ズン

んんん

んんん



ふっふっふっ  
はあっはあっ

ふっふっ

んはあっ……  
最高っ！気持ち良っ

もっと……もっと  
先輩の中をっ

ぽんぽん

ズボン

ズボン

ふっふっふっ  
はあはあ

ふっ

ふっ

ふっ

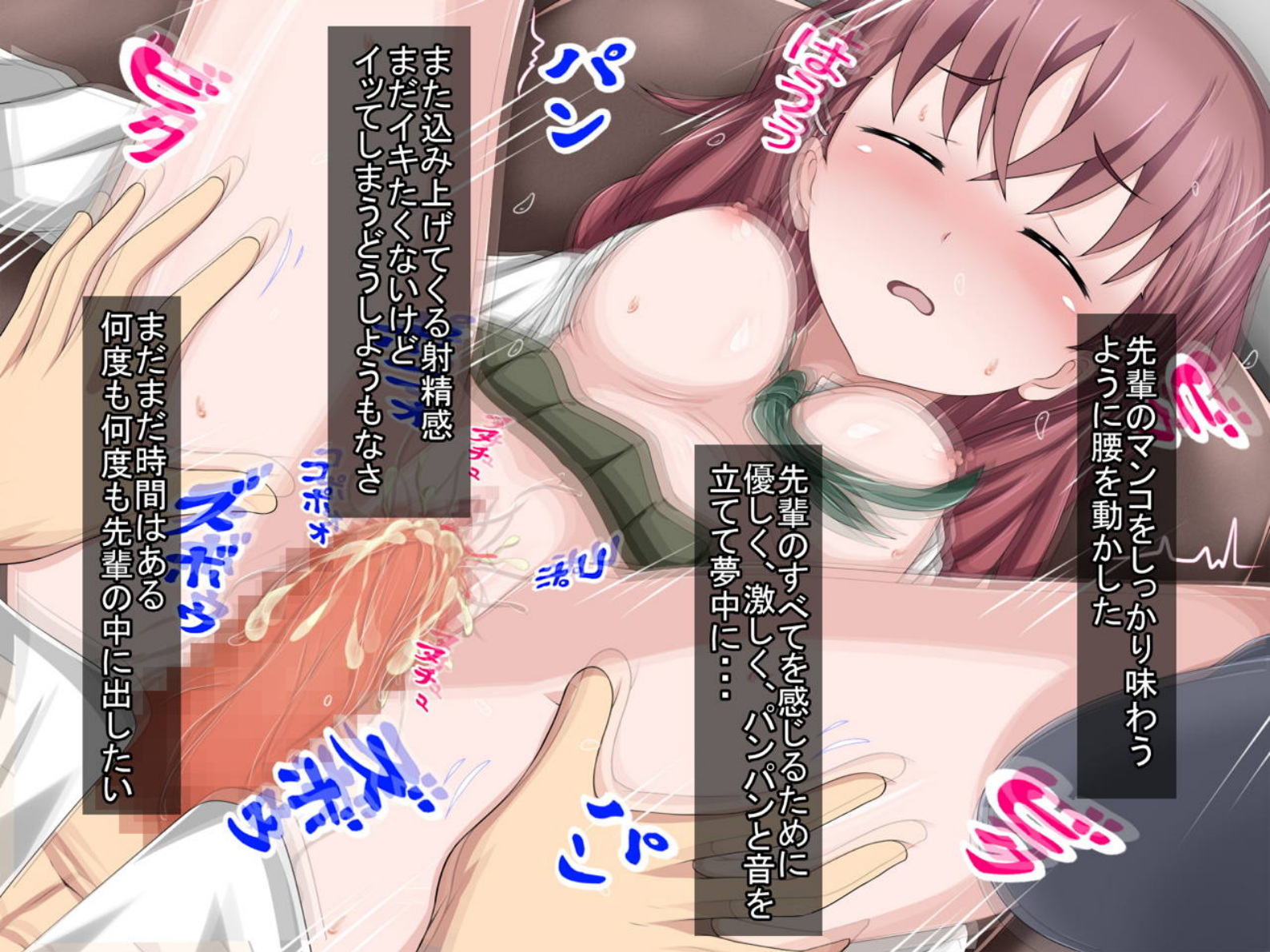


先輩のマンコをしっかりと味わうように腰を動かした

先輩のすべてを感じるために優しく、激しく、パンパンと音を立てて夢中に……

また込み上げてくる射精感  
まだイキたくないけど  
いつてしまうだろうしようもなさ

まだまだ時間はある  
何度も何度も先輩の中に出したい









はあ……はあっ  
俺の想い……届きましたか？

3回目の中出しをした  
受精するように孕ませるように  
想いを込めて中に

ちやんと……  
孕んでくださいよ



無我夢中で腰を振った

勃起はしていたが  
まだ射精するかは分からなかったが  
もつと出したいと感じ

先輩と繋がったまま俺は  
また腰を動かし始めた

はぁっ...はぁっ

ポロポロ

はぁ

はぁ







何時間経っただろう  
俺は眠っている先輩に  
中出ししまくった

確実に孕んだと思う

休憩中もチンコは抜かず  
中に挿入したままで  
何度も中出しした

充実感に包まれつつ  
ゆっくりとチンコを抜いた

んんん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん





ははっ…  
つすっげえ…

起きるまで続けようかと  
思ったが俺の良心が働いたの  
だらう片付けることにした

中に出した精液もしっかりと  
拭いた…多分残ってるだらうが

思わず声が出るほど  
大量の精液が溢れて出た



元気な赤ちゃん  
産んでくださいね

【孕ませライフ】

～先輩睡姦～

END